

教科「国語」シラバス 高校2年

1. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(科目) 古典特講	2 単位	第2 学年 《文系選択必修》 ※習熟度別に3クラスに分割し、授業を行なう。定期考査の成績をもとに、学期ごとにクラスを組替える。	・『四訂版 プログレス古典総演習 標準編』いっずな書店 ・『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』桐原書店 ・『Key&Point 古文単語 330 三訂版』いっずな書店 ・『漢文学習必携 三訂増補版』京都書房 ・『新訂 国語図説 五訂版』京都書房
学習の到達目標	・問題演習形式での学習を通して、古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。習熟度に応じたクラス別の授業により、文法や敬語の知識をはじめとする読解スキルを伸ばす。【知】 ・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 古文や漢文を読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と China など外国の文化との関係について理解を深めることができる。【思】 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。【主】		
評価の観点	《知識・技能》 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な知識・技能を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにし、我が国の言語文化に対する理解を深めている。 《思考・判断・表現》 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 《主体的に学習に取り組む態度》 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。		

【定期考査における観点別評価について】

年間5回の定期考査において、各回とも問題ごとに《知識・技能》《思考・判断・表現》《主体的に学習に取り組む態度》の3観点における評価を行い、点数化し、評定算出の基本資料とする。

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・100%

B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・80%

C：「努力を要する」状況と判断されるもの・・・60%

D：未提出，未実施・・・0%

2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単 元	学習のねらい	学習のポイント，使用教材等
1 学 期 中 間 考 査 ま で	①古文『平家物語』 ②漢文『西京雜記』 ③古文『更級日記』 ④古文単語試験	・文語助動詞の種類と用法を理解する。 ・軍記物語の文体の特徴について理解する。 ・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・部分否定・全部否定、使役形などの句法を再確認し、知識の定着をはかる。 ・書かれていないことを、文脈・常識などから正しく把握する。 ・形容詞・形容動詞の種類と用法とを理解する。 ・日記を読み、時代背景を知り、作者の感情を読み取る。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。	・上記教材に加え、各習熟度別クラスの理解度に応じて、適宜補助教材（プリント）を使用する。
1 学 期 期 末 考 査 ま で	①古文『古本説話集』 ②漢文『史記』 ③古文単語試験	・文語助動詞・助詞の種類と用法との理解を確認する。 ・説話のおもしろさを味わい、古人のものの見方、感じ方、考え方について認識を深める。 ・作品の内容を、構成や展開に即して的確にとらえる。 ・漢文の訓読のきまり、「疑問・反語」などの主要な句法を確認する。 ・古代 China の有名なエピソードを読み、人間性に対する深い洞察を読み取る。	上記教材に加え、各習熟度別クラスの理解度に応じて、適宜補助教材（プリント）を使用する。

2 学期 中間 考 査 ま で	①古文『百人一首一夕話』 ②漢文『蒙求』 ③古文『伊勢物語』 ④古文単語試験	- 和歌に関する説話を読み、古代人が和歌についてどのように考えていたのか、ということ学ぶ。 - 様々な形の使役表現を確認する。 - 儒教的な「ものの考え方」について理解する。 - 古代和歌の基本について学ぶ。 - 推量の助動詞が持つ幅広い意味用法にふれる。 - 歌物語の基本について学ぶ。	上記教材に加え、各習熟度別クラスの理解度に応じて、適宜補助教材（プリント）を使用する。
2 学期 期 末 考 査 ま で	①古文『無名草子』 ②漢文『後漢書』 ③古文単語試験	- 副助詞を学び、文の細かいニュアンスまで掴み取れるようにする。古代人の、書き言葉に対する思いについて理解する。 - 反語表現について習熟する。 - 助詞の意味用法に習熟する。	上記教材に加え、各習熟度別クラスの理解度に応じて、適宜補助教材（プリント）を使用する。
3 学期 期 末 考 査 ま で	①古文『大鏡』 ②漢文『夢溪筆談』 ④古文単語試験	- 歴史物語について学ぶ。「四鏡」の構造について理解する。敬語の復習を行なう。 - 限定・累加の句法について学ぶ。	上記教材に加え、各習熟度別クラスの理解度に応じて、適宜補助教材（プリント）を使用する。

【成績評価の概要について】

(1) 学期における評価の対象

- ・ 中間考査・期末考査：100 点満点（年間 5 回実施）
- ・ 授業内古文単語テスト：各回 20 点満点（学期に 8 回程度実施）
- ・ 授業態度、課題への取り組み

(2) 学期評定の算出方法

中間考査・期末考査・授業内単語テストにより《知識・技能》を、中間考査・期末考査・提出課題等により《思考・判断・表現》を、授業への取り組み姿勢・授業内小テスト・提出物等により《主体的に学習に取り組む態度》を評価する。定期考査と平常点の割合は 4 : 1 程度。

(3) 年度末評定の算出方法

定期考査・授業内単語テスト等により《知識・技能》を、定期考査・提出課題等により《思考・判断・表現》を、授業への取り組み姿勢・授業内小テスト・提出物等により《主体的に学習に取り組む態度》を評価する。定期考査と平常点の割合は 4 : 1 程度。

上記の内容は、生徒の状況を見て、より高い学習効果が期待できると判断した場合は、事前説明を行なった上で変更する場合もあり得る。